

開催直前フシ講座

# 神社本殿から、木の経典を発見！

## 一東近江市松尾神社法華経一

定員  
200名

受講料  
無料※

〈講師〉 井上 優

※事前の予約が  
必要となります。



『法華経』巻8の末部

日時 平成30年  
5月17日(木) 13:30～15:00  
(受付開始 13:15)

会場 コラボしが21 3階  
大会議室

滋賀県大津市打出浜2の1

JR琵琶湖線膳所駅より徒歩15分  
京阪石坂線石場駅より徒歩5分

※会場には駐車場がございません。近隣の駐車場(有料)をご利用になるか、公共交通機関でおこしください。



お経はふつう紙に書かれるものですが、薄く細い板材に一行ずつ書きする「こけら経」と呼ばれるものもあります。平成26年、松尾神社本殿から地域の方がたによって「こけら経」が発見されました。内容を確認したところ、南北朝時代の貞治4(1365)年から応安元(1368)年まで足かけ4年間、<sup>げんせん</sup>厳運という名の僧侶が書き写した『法華経』であることが判明しました。中世における松尾神社の名称と考えられる「惣社宮」で書写したとも記され、650年近く昔から地域に伝えられたことがわかります。「こけら経」は一般に発掘調査で遺跡から出土することが多く、神社本殿から発見された事例は全国でも他にありません。神と仏を一体的に信仰していた時代の貴重な史料といえます。平成29年に県指定有形文化財となった注目すべき「木の経典」について詳しく紹介します。



松尾神社のこけら経



〈講師プロフィール〉

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課  
井上 優 (いのうえ まさる)

1965年滋賀県生まれ  
全国国宝重要文化財所有者連盟専門委員  
元栗東歴史民俗博物館学芸員  
元京都橘女子大学非常勤講師

【参加のご予約・お問い合わせ】

滋賀県立 琵琶湖文化館

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先  
TEL 077-522-8179 FAX 077-522-9634  
E-mail biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp  
ホームページ <http://www.biwakobunkakan.jp>

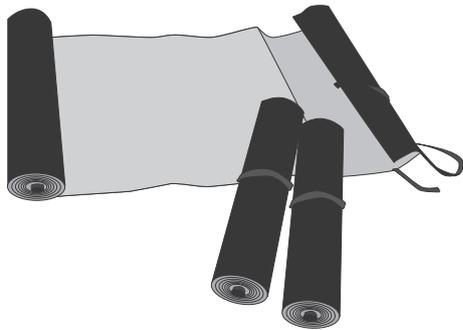
フシ講座  
豆知識

今回の講座は、全国で唯一、神社本殿から発見された木の経典「こけら経」についてのお話です。このこけら経が見つかった松尾神社は、近江鉄道の八日市駅を降りて徒歩すぐ、延命山の麓にある神社です。社伝によれば、この山を北へ尾根伝いに行ったところにある、聖徳太子が創建したと伝わる瓦屋寺の別院、尊勝寺(そんしょうじ)を鎮守する神社だったといわれています。緑深い木立に包まれた境内の中には、自然石を多用した見事な枯山水の庭園があり、是非訪れてみたいスポットの一つとなっています。



# クイズに答えて絵はがきをもらおう！

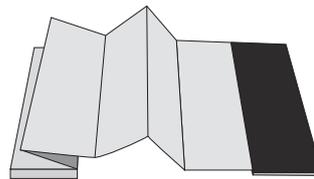
意外と知らないお経のこと。形状の違いもいろいろあります。  
5月17日のプレ講座に参加して、クイズに答えると正解者には、素敵な絵はがきをプレゼントします。このチラシを持って是非ご参加ください。



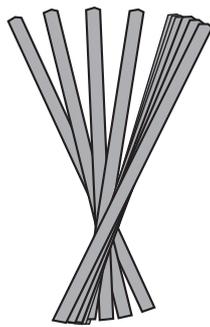
「お経」と言って先ず思い浮かぶのがコレ?!  
端に芯を持って巻き付け保管する、いわゆる巻物ですが、マキモノとは呼びません。  
では何と呼ぶ?

答え ( )

巻物では閲覧や保存などに不便なことから、紙を蛇腹型に折たたんだ形。  
全 600 巻の「大般若経」を空中でばらばらと広げるダイナミックな『転読』は有名です。



答え ( )



薄い板材を 30cm 程の長さに削った細片に經典を墨書したもの。基本的に1枚に1行17文字が書写されています。この板を「柿」と言いますが、果物の「かき」という字ではありません。  
では何と読む?

答え ( )

ごあんない

平成30年度  
滋賀の文化財講座

## 打出のコツチ 本講座 (開催予定)

※ 都合により内容が変更となる場合がございます。

第1回 6月21日 (木)

日野町馬見岡綿向神社の巨大絵馬  
平成29年度滋賀県新指定文化財から  
〈講師〉矢田直樹 (文化財保護課)

第2回 7月19日 (木)

近江の慶派と快慶仏  
圓常寺・阿弥陀如来立像を中心に  
〈講師〉古川史隆 (文化財保護課)

第3回 8月30日 (木)

神仏習合の世界  
『耀天記(ようてんき)』を中心に  
〈講師〉渡邊勇祐 (琵琶湖文化館)

第4回 9月20日 (木)

世界遺産・国宝延暦寺  
根本中堂の魅力と平成の大修理  
〈講師〉菅原和之 (文化財保護課)

第5回 10月11日 (木)

天下布武の城・安土城  
〈講師〉松下 浩 (文化財保護課)

第6回 11月8日 (木)

現地探訪  
彦根城外堀の痕跡をめぐる  
〈講師〉松下 浩 (文化財保護課)

※開催約1カ月前から別途募集



花湖さんの

# 打出のコツチ

専門の文化財担当職員と学芸員がわかりやすく解説いたします。

花湖さんは、滋賀の文化財講座のネーミングライツ  
パートナーびわ湖花街道のイメージキャラクターです。

**受講料無料** ※事前の予約が必要です。

**第1回 6月21日(木)**

**日野町 馬見岡綿向神社の  
巨大絵馬**

平成29年度滋賀県新指定文化財から



〈講師〉

矢田直樹 (文化財保護課)

**時間** 13:30～15:00 **定員** 200名  
(受付開始 13:15)

**第2回 7月19日(木)**

**近江の慶派と快慶仏**

圓常寺蔵阿弥陀如来立像を中心に



〈講師〉

古川史隆 (文化財保護課)

**時間** 13:30～15:00 **定員** 200名  
(受付開始 13:15)

**第3回 8月30日(木)**

**神仏習合の世界**

ようてんき  
『耀天記』を中心に



琵琶湖文化館蔵 日吉祭礼図絵巻(部分)

〈講師〉

渡邊勇祐 (琵琶湖文化館)

**時間** 13:30～15:00 **定員** 200名  
(受付開始 13:15)

**第4回 9月20日(木)**

**世界遺産・国宝延暦寺  
根本中堂の魅力と平成の大修理**



〈講師〉

菅原和之 (文化財保護課)

**時間** 13:30～15:00 **定員** 200名  
(受付開始 13:15)

**第5回 10月11日(木)**

**天下布武の城 安土城**



安土城大手口

〈講師〉

松下 浩 (文化財保護課)

**時間** 13:30～15:00 **定員** 200名  
(受付開始 13:15)

**予告**

※開催約1カ月前から  
別途募集を始めます。

**第6回 11月8日(木)**

**【現地探訪】  
彦根城外堀の痕跡をめぐる**



彦根城外堀の土塁

〈講師〉

松下 浩 (文化財保護課)

詳細は後日公開

**定員** 60名

※実費(保険料)が必要となります。

**会場 コラボしが21  
3階 大会議室**

**第1回  
第5回** 滋賀県大津市打出浜2-1

JR琵琶湖線膳所駅より徒歩15分  
京阪石坂線石場駅より徒歩5分

※会場には駐車場がございません。近隣の駐車場(有料)をご利用になるか、公共交通機関でおこください。



【参加のご予約・お問い合わせ】

**滋賀県立琵琶湖文化館**

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜地先

TEL / 077-522-8179

FAX / 077-522-9634

E-mail / biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

ホームページ / <http://www.biwakobunkakan.jp>



文化館キャラクター  
あぎつ君

平成30年度 滋賀の文化財講座

# 花湖さんの 打出のコツチ

近江には、国宝や重要文化財を含む多種多様な文化財が伝わっています。滋賀県教育委員会と琵琶湖文化館では、これらの文化財を保護・活用するため、調査や保存修理・展示公開などさまざまな取組を行っています。

本講座は、行政と博物館が協働して、滋賀の文化財をめぐるホットな話題を提供し、文化財を身近に感じていただくとともに、その魅力を広く県民の皆さまに向けて情報発信していこうとするものです。

## 第1回

### 日野町馬見岡綿向神社の巨大絵馬

—平成二九年度滋賀県新指定文化財から—

日野祭は、馬見岡綿向神社の春の大祭として毎年五月二日から四日にかけて神輿の渡御、曳山巡行が盛大に行われ、県内でも有数の祭礼行事です。この馬見岡綿向神社の境内に建つ絵馬殿には、神輿などの祭礼行列の様子を描いた横幅四メートルを超える巨大な絵馬が掲げられています。本講座では、この絵馬の見どころを紹介するとともに奉納された歴史的な背景についても考えてみたいと思います。

## 第2回

### 近江の慶派と快慶仏

—圓常寺蔵阿弥陀如来立像を中心に—

圓常寺は旧彦根城下町に伽藍を構え、本尊の阿弥陀如来立像は、鎌倉時代を代表する仏師快慶の作として知られています。均整の取れた肉身や繊細な衣文表現など優れた出来栄をみせ、快慶晩年の制作と考えられます。また、滋賀県内に二例しか現存しない快慶の作品のうちの一つとしてきわめて貴重です。本講座では、阿弥陀如来像の彫刻史的意義および平成二五年に実施した保存修理の概要について解説します。

## 第3回

### 神仏習合の世界—『耀天記』を中心に—

—よつてんき

比叡山を舞台に神と仏が融合した神仏習合現象である山王信仰。その信仰はやがて、天台宗の学僧を中心に理論化され、中世には「山王神道」として発展を遂げます。これを仏教の中から生まれた神道といつて、仏家神道（仏教神道）と呼んでいますが、その影響下で、神猿や山王鳥居、日吉造、山王祭など独自の習合文化を形成します。そして、それらの由緒や教説、祭礼の有様を記した最も古い書物が『耀天記（よつてんき）』です。琵琶湖文化館には、この『耀天記』（個人蔵）の現存最古の写本が収蔵されています。本講座では、この『耀天記』を中心に山王神道の書物を読み解きながら、中世近江の神仏習合の世界に迫りたいと思います。

## 第4回

### 世界遺産・国宝延暦寺 根本中堂の魅力と平成の大修理

現在の国宝延暦寺根本中堂は、元龜二年（一五七一年）の織田信長による延暦寺焼き討ちの後、八年の歳月をかけて寛永一七年（一六四〇年）に完成しました。根本中堂は滋賀県下でも屈指の大きさを誇る木造建造物で、また内・外部に、漆・彩色・塗装が施された荘厳かつ華やかな本堂を代表する建造物です。前回の昭和二九年の半解体修理から六十年以上が経過し、屋根は雨漏りを生じ、漆・彩色・塗装は剥落が進んでいたため、平成二八年度から保存修理工事に着手しました。本講座では、世界遺産でもある根本中堂の魅力と、平成の大修理について紹介します。

## 第5回

### 天下布武の城 安土城

安土城は織田信長が築いた大城郭です。しかし安土城について記された史料は少なく、その実像は謎に包まれていました。そうした中、平成元年度から実施された特別史跡安土城跡調査整備事業によつて、安土城について新たな事実が次々と発見され安土城の研究は大きく進展しました。また、近年の織田信長の再評価は安土城の再評価にも深く関わっています。本講座では安土城をめぐる最新の研究状況を紹介し安土城の再評価を試みます。

## 第6回

### 【現地探訪】 彦根城外堀の痕跡をめぐる

滋賀の文化財講座開催以来初めての現地探訪では、昨年度の第二回講座で学んだ彦根城を訪れます。彦根城は、江戸時代には内堀・中堀・外堀の三重の堀に囲まれた壮大な城でした。明治時代以降、外堀はほとんど埋められてしまいました。現地には今でも水路や地面の段差などの痕跡が残っています。この外堀跡をたどり、「究極の城」彦根城の魅力に迫ります。昨年度の講座を受けていない方でも、ご参加いただけます。

※日時・タイトル・講師および内容の一部について、都合により変更となる場合がございます。最新の情報につきましては琵琶湖文化館ホームページ（<http://www.biwakobunkakan.jp>）をご確認いただくか、電話（077-522-8179）にて、お問合せください。

# 花湖さんの 打出のコツ千 第6回

## 彦根城外堀の痕跡をめぐる

11月8日(木) 開催しました!

平成20年度より始まった「滋賀の文化財講座」では、今年初めての取組みとなる『現地探訪』を実施しました。昨年の講座でリクエストの多かった彦根城の外堀跡をめぐるしました。

行程

①JR彦根駅 → ②護国神社前 → ③切通口 → ④油懸口 → ⑤外馬場公園 → ⑥追加指定土塁跡 → ⑦高宮口 → ⑧池州口 → ⑨京橋口 → ⑩中藪口 → ⑪船町口 → ⑫大手口 → ⑬表門橋

約5km



⑫大手口



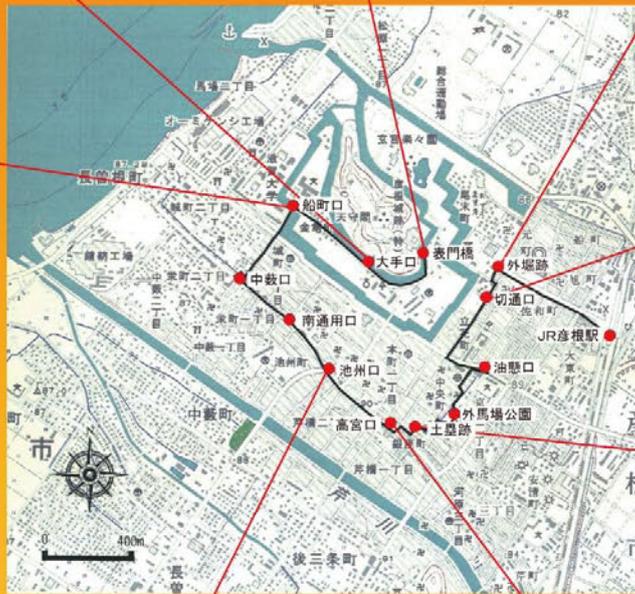
⑬表門橋



②外堀跡(護国神社前)



⑩船町口



③切通口



⑨⑩中藪口~船町口



⑥土塁跡



⑧池州口



⑦高宮口



彦根城は、江戸時代には内堀・中堀・外堀の三重の堀に囲まれた壮大な城でした。明治時代以降、外堀はほとんど埋められてしまいましたが、現地には今でも水路や地面の段差などの痕跡が残っています。皆さまも、外堀の痕跡をから、いつもと違う「彦根城めぐり」はいかがでしょう。



花湖さんは、滋賀の文化財講座のネーミングライツパートナー。ひわろ花街遊のイメージキャラクターでもあります。

